様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　４ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４４１９
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２４７８

研究課題名（和文）教師・学習者のための韓国語タスク別書き言葉コーパスの構築

研究課題名（英文）Construction of a corpus of task-based writing for teachers and learners

研究代表者
小島　大輝（KOJIMA, DAIKI）

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：２０７１２１７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では韓国語教育に携わる教師や学習者を念頭においた韓国語教育のための基礎的資料の提供を目的に韓国語母語話者及び韓国語学習者が作成した，タスク別の韓国語依頼メール文をデータとする電子資料を作成した．資料を分析した結果，韓国語の依頼メールには，日本のものよりも特定の意味公式を使用する頻度が高いことが示された．また，語彙を分析したところ，タスクを達成するために使用される傾向のある単語とその共起ネットワーク等が明らかになった．

研究成果の学術的意義や社会的意義
韓国語学習者は年々増加している傾向にあり，それに伴って教材も増えつつあるが，書く能力を育成するための教材が不足している．本研究では，韓国語母語話者と韓国語学習者からそれぞれ，依頼メール文の作成データを収集し，タスク達成に必要な表現や語彙，文法，ストラテジー等を明確化するとともに，メールライティングの過程で生じる学習者の誤用やレベル別習得過程を示すことができる．また，データを整備し公開することで研究利用のほかにも，将来的に教育的利用，さらには学習者が自学習用として広く利用することも可能となり，今後の韓国語教育にきわめて有用となることが見込まれる．

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to create a corpus of request e-mail messages that were written by Korean L1 speakers and Korean learners in various language tasks, aiming to provide linguistic data for use in Korean as a foreign language teaching and learning. The results indicated that the Korean request e-mails involved more frequent use of particular semantic formulas than the Japanese ones.The vocabulary analysis of the Korean e-mails revealed words that tend to be used to achieve the language task and their co-occurrence networks.

研究分野：韓国語学

キーワード：韓国語　書き言葉　依頼メール

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年の韓国語教育の発展に伴い教材，特に会話コミュニケーションのための教材の増加は特筆すべき点として挙げられる．韓国語は書き言葉と話し言葉における文体差を有するとともに，敬語法も複雑に細分化された言語であるが，これまでの教材は，話し言葉，会話に重きを置いたものが多く，書き言葉に対しては不十分であった点は否めない．書き言葉によるコミュニケーションの一例としてメール等があるが，メールを書くという行為は，当該言語の運用能力のみならず，背景にある文化の理解等を必要とし，母語話者でも読み手への配慮にたいへん気を遣うものである．読み手に自分の考え・要望を正確に伝え，それを達成するための「書く能力」の習得は，外国語学習者にとって困難な課題の一つである．したがって，より高い水準のコミュニケーション能力の獲得のためには，話す能力と同様に書く能力の向上も重要であると考えられ，外国語教育の観点から当該能力向上に資するデータの整備と調査がなされる必要性があるといえよう．

２．研究の目的

上述の点を踏まえ，本研究の目的は，日本語を母語とする韓国語学習者を対象にメールライティングタスクを課すことでデータを収集し，そのデータを電子テキスト化した後，韓国語母語話者の同様のデータと比較，分析することで，両者が使用する語彙や表現の様相を明らかにすることである．出現頻度，各項目の重要度，コロケーション情報等も鮮明にすることができ，外国語教育への応用が可能になると考えられる．

３．研究の方法

日本国内の大学において，日本語を母語とする韓国語学習者と留学中の韓国語母語話者に調査への協力を依頼し，依頼を主とするメールライティングタスクを課すことでデータを収集した．調査協力者がメールを作成する際にはノートパソコンを用い，こちらであらかじめ作成しておいたテンプレートを用いた調査を主に行った．韓国語学習者の場合はノートパソコンで韓国語を入力するのに不慣れなことがあるため，タブレット端末の使用や手書き用紙へ記入してもらうことで対処した．手書きで記入されたものは，後日すべて電子テキスト化し，データの整備を行なった．また，分析に用いるために，個人に関わる情報などはすべて加工し，調査協力者が特定されないようにした．得られたデータは日本語教育分野における研究を参考にしながら，メールの展開構造をはじめ，機能的要素（意味公式）の使用有無，依頼に多用される語彙と表現の特徴に関する調査を行なった．とりわけ，語彙と表現については，フリーのテキストマイニングソフトを用いて計量的な調査も行った．また，学習者に対しては，どの程度の外国語能力を有しているのかという点も同時に調査した．これには斉藤信浩(2013)によって開発された韓国語語彙能力テストを用いた．

４．研究成果

（１）本研究で用いたタスクにおける傾向として，韓国語母語話者が書いた依頼メールは，日本語のそれに比べ，上位者に対して[呼びかけ]，[挨拶]，[提案・調整]，[感謝]といった意味公式が多く使用される傾向にあった．また，メールの受信者が上位者ではない場合，[補償]の意味公式も使用されやすい傾向が見られた．このうち、[呼びかけ]，[感謝]，[補償]といった意味公式の使用は，日本語にはほとんど見られないものであり，先行研究の結果と共通する点も確認された．

（２）依頼メール文において出現頻度の高い語彙の特徴や共起しやすい語などを示すことができた．使用された語彙を日本および韓国で公開されている教育向けの韓国語のレベルと照らし合わせてみたところ，そのほとんどは初級から中級の学習語彙であることからメール文を構成する語彙自体は平易なものであった．一例を挙げると‘talumi anila’,‘pappusin wacwungey coysonghaciman’,‘hoksi -tamyen’,‘-key toyta’,‘-myen chacapoypta’,‘ato kwaynchanhta’,‘swu issta’などがあり，このような語彙をいかに運用しているのかといったことを含め，大学生のメールライティングの実態の一端を描写できたと思われる．

表１．推薦書執筆依頼のメールにおける頻出と国際通用韓国語語彙の等級

NNG	빈도	등급	NNB	빈도	등급	MAG	빈도	등급	EF	빈도	등급	JO	빈도	등급
교수06	99	2	일07	25	1	잘02	13	1	ㅂ니다	101	1	에	85	1
추천서	62	4	님01	24	3	혹시01	11	2	습니다	95	1	을	81	1
부탁	42	1	월02	24	1	많이	9	1	요	31	1	이	51	1
필요	36	1	것01	17	1	현재02	9	2	ㄹ까요	8	1	가	46	1
유학04	34	2	중04	15	1	및	5	3	ㅂ니까	8	1	의	40	1
안녕	27	1	수02	14	1	MM			는데요	5	2	를	39	1
연락02	26	2	데01	5	3	그01	7	1	ETM			로	33	1
선생님	25	1	NP			제26	7	1	ㄴ	78	2	는	30	1
지도09	23	3	저03	20	1	VX			ㄹ	27	2	께	26	2
제가80	22	1	VV			주다01	28	2	는	26	2	도	26	1
서류02	21	2	드리다01	80	1	있다01	21	1	던	6	4	은	26	1
제출02	19	3	되다01	29	1	하다01	21	—	ETN			으로	22	1
감사13	17	1	하다01	29	1	싶다	15	1	ㅁ	28	2	까지	21	1
메일	16	2	보내다	12	1	보다01	7	2	기	16	2	께서	12	1
작성01	15	3	가다01	11	1	않다	7	1	지	6	1	과	9	1
영어	15	1	대하다02	10	3	계시다	6	—	XSV			만	6	1
마감01	14	5	찾아뵙다	10	4	EP			하다02	84	—	부터	6	1
준비	14	1	올리다01	9	2	시	102	1	되다05	10	—	에서	5	1
대학교	13	1	알다	8	1	씨	52	1	XSA			TAG		
이번01	13	1	위하다01	8	3	겠	35	1	하다02	92	—	송신자	48	
말씀	12	1	관하다02	6	5	EC			XSN			UCLA	25	
영문01	12	6	쓰다01	6	1	고	67	1	님04	69	3	미국	24	
생각01	10	1	바라다01	5	2	서	40	1	적18	7	3	고현배	22	
시간04	10	1	받다01	5	1	게	32	2	XR			소속	19	
상담01	9	3	알리다	5	1	면	21	2	죄송	9	1	x	9	
학년	9	2	VA			지만	16	1						
학번	9	5	다르다01	17	1	ㄴ데	12	2	NNG	보통명사		EC	연결어미	
때01	8	1	바쁘다	14	1	다면	11	4	NNP	의존명사		EF	종결어미	
와중01	8	—	괜찮다	13	1	라고	11	3	NP	대명사		ETM	관형사형	
첨부01	8	4	이렇다	8	2	다고	8	3	VV	동사		ETN	명사형성	
가능	7	3	같다	6	1	도	8	2	VA	형용사		XSV	동사파생	
건80	6	5	Sonzai			야	7	1	Sonzai	존재사		XSA	형용사파생	
다음01	6	1	있다01	28	1	려고	6	1	VC	지정사		XSN	명사파생	
달05	6	1	없다01	4	1	고자	5	4	MAG	부사		XR	어근	
요즘	6	1	VC						MM	지시사		JO	조사	
파일03	6	3	이다	72	1				VX	보조 용언		TAG	임의로 지정	
양식03	5	5	아니다	22	1				EP	선어말어미				

（3）韓国語母語話者が使用しやすい語彙や表現等のうち，特徴的な表現として，とりわけ「-key toyta」に焦点を当てて詳細に分析することを試みた．‘ -key toyta ’については，主に状況の変化を表すとされているが，実際に収集した依頼メール文のデータ中では，このような典型的な用法とは別の用法で用いられていることを確認した．これについては，依頼相手との上下関係や親疎関係，依頼の難易度等により，その出現の様相が左右されることから，恭遜表現として用いられたのではないかと考えられる．

表2．韓国語母語話者が使用しやすい表現と日韓における等級

관용 표현, 어미	등급(일본)	등급(한국)
부탁 드리다	5(초급)	—
안녕하세요?(안녕하십니까?)	5(초급)	—
죄송하지만	4(초급)	—
-고 있다	4(중급)	1(초급)
-아서/어서	4(초급)	1(초급)
-아/어도 되다, 괜찮다	4(초급)	2(초급)
-(으)ㄹ 수 있다	3(중급)	1(초급)
-게 되다	3(중급)	2(초급)
-다고 하다	3(중급)	3(중급)
다름이 아니라	3(중급)	—
혹시 -면/다면	3(중급)	—
바쁘신 와중에	1·2(고급)	—

（4）韓国語学習者が誤りやすい表現や語彙の特徴を探るとともに，どの程度の韓国語語彙能力を有しているか，語彙能力テストによって測定した．本テストを受験した学習者はみな国内の大学で韓国語を学習しており，第二外国語として，あるいは専攻言語として学習している．本テストは48問から構成されているが，多くの者が8割程の高い得点率であった．現時点ではまだ調査中であるため，詳細な結果は得られていないが，上位得点者のデータと韓国語母語話者のデータとを比較すると意味公式の使用やメールの展開には近似するものがあり，使用されている語彙自体の誤用も少なかった．ただし，敬語の使用法や依頼表現と配慮表現として機能する特定の語尾等は，韓国語母語話者のレベルまでには至っていないようである．上位得点者でレベルの高い学習者といえども，あらたまった依頼場面において過不足なく情報を伝えるとともに適切な配慮表現を用いたメールライティングをこなすには困難が伴うことを示唆するものであった．

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 小島大輝	４．巻 32
２．論文標題 韓国語母語話者の依頼メールにおける語彙と意味公式の使用様相―本を借りるタスクの場合―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文学・芸術・文化	６．最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小島大輝	４．巻 18
２．論文標題 韓国語教育のための推薦書執筆依頼メールの分析（原題：韓国語）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 International Journal of Korean Studies	６．最初と最後の頁 105-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Kojima Daiki and Sumi Yoon
２．発表標題 A Study on the Use Pattern and the Pragmatic Function of ‘-key toyta’ in Korean Emails
３．学会等名 The 22nd Meeting of the International Circle of Korean Linguistics（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小島大輝
２．発表標題 日韓依頼メール文におけるいくつかの特徴について
３．学会等名 対照言語学研究会第1回例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kojima, Daiki
２．発表標題 Characteristics of Requesting E-mail Discourse in Korean: Focussing on the Use of Semantic Formulas and Vocabulary by L1 Users
３．学会等名 The 21st Meeting of the International Circle of Korean Linguistics（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小島大輝
２．発表標題 韓国語教育のための推薦書執筆依頼メールの分析（原題：韓国語）
３．学会等名 The 14th ISKS International Conference of Korean Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小島大輝
２．発表標題 韓国語母語話者による調査依頼メールについて―使用された語彙と共起様相の特徴―（原題：韓国語）
３．学会等名 第1回多文化研究と学際的教育国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 小島大輝
２．発表標題 韓国語母語話者の依頼メールにおける展開と表現
３．学会等名 朝鮮語教育学会第78回例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小島大輝
２．発表標題 韓国語依頼メール文の語彙について
３．学会等名 第53回韓国語研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関